

【別添4】

ノウフク・アワード2025審査基準

【地域協議会、NPO 法人、協同組合等が主体となっている取組】

（「実施要領3(1)募集する取組」のうち⑧、⑨の取組）

農福連携等応援コンソーシアムのアイデンティティを「耕すみんなを応援する」とし、これに連動させ、ノウフク・アワード2025では「人を耕す」、「地域を耕す」、「未来を耕す」という3つのキーワードを評価軸に設定し、多様な視点・切り口から評価を行い、90点満点で評価を行う。なお、応募用紙の一部の項目において、字数制限を著しく超過した場合は減点対象となる。

3つのキーワードの視点
「人を耕す」=農福連携等を推進する多様な当事者に光が当たる取組になっているか
「地域を耕す」=地域農林水産業に積極的に関与し、持続可能な地域社会のあり方を発信できるような取組となっているか
「未来を耕す」=農福連携等の新しい価値、物語を発掘し、波及効果のある取組となっているか等

選定基準	評価ポイント	評価点	点数配分
1. 人を耕す	○ 年間を通じた農作業の創出に向けた支援等、障害者等の賃金・工賃向上に向けた取組を行っている ○ 農福連携技術支援者等の派遣による助言や取組のルール作り等、障害者等に対して能力や適性に応じた農作業等の選定が行われるような取組を行っている ○ 農林水産業経営体及び福祉事業所等の双方の不安や疑問を解消し、障害者等が働きやすい環境の整備に関する支援等を行っているほか、農作業等の安全管理や健康管理が適切に行われるよう支援・指導している ○ 障害者等がその能力を活用して農林水産業等に携わることで社会参画を図り、自己決定に基づいて、地域において主体的な生活を営むことができており、一般就労へとつながっている事例も見られる ○ 障害者等が農林水産業において活躍する姿を通じて地域や職場内等で障害者等に対する理解が深まり、多様な人々が働きやすい職場環境の創出につながっている ○ 多様な人々が農福連携に関わることで、お互いを認め合う雰囲気が生まれており、立場が違っても理解し、寄り添い、助け合おうとする環境が創出されている	各 評 価 項目5点 ×6項目	30点
2. 地域を耕す	○ マッチング支援等により、障害者等が地域における貴重な農林水産業の労働力となることで、地域農林水産業の維持・発展に貢献している ○ 農福連携等の見学会や先進地視察、ワークショップの開催等、障害者等に対する理解が深まることで、福祉事業所等が農作業等を請け負う農地面積や農林水産業経営体の数、障害者等の受け入れを希望する農林水産業経営体の数等が増加している ○ 農福連携の推進等により、マッチング支援等を行った農林水産業経営体の経営の安定化が図られ、規模拡大、生産性向上につながっている	各 評 価 項目5点 ×6項目	30点

	る ○ 農福連携の推進等を通じて、地域の人々が障害者への理解を深め、多様な人々が共生できる豊かな地域社会の実現に貢献している ○ 農林水産業経営体や福祉事業所等と連携して農作業体験や収穫体験等を行うことで地域内外との交流を行っている ○ 市町村が取組に参画している等、地域の企業・農林水産業経営体・JA・社会福祉法人・特別支援学校・地方公共団体等と連携して農福連携等を推進しており、地域活性化へとつながっている		
3. 未来を耕す	○ スマート農業の推進等、先進性、独創性、話題性がある取組を行っている ○ 規約等により継続的に活動を行うための体制づくりができている等、農福連携の推進等の模範となる取組であり、全国への波及効果が期待できる ○ ユニバーサル農園の推進等、地域内外との連携を深めることで、持続可能な地域共生社会や多様性のある地域づくりに貢献しており、これからの日本社会に必要な農福連携の形が発信できている ○ 農福連携の取組が地域内に止まらず、地域外の団体等とも連携し、幅広い分野・地域とのつながりを生むことで、新しい農福連携の形が形成されている ○ 農福連携実践者に対する高収益作物への転換やノウフク JAS、GAP等の認証取得、6次産業化を通じたブランド化や環境等に配慮した持続可能な農業などの推進により、農福連携の取組を通じて地域農林水産業の未来に明るい兆しが見えている ○ 人の心を動かす農福連携の推進等に関するストーリーがあり、企業や国民が応援したいと思わせるような取組である	各 評 価 項目5点 × 6項目	30点